

記念特別上映!

周年

極限のフィルム表現、
極北のメタ映画

DUBHOUSE
EXPERIENCE
IN MATERIAL
NO.52

同時上映!

声 つぐみ

西島秀俊

山本浩司

山本直樹

原作 山本直樹

音楽 侘美秀俊

七里圭 監督作品

眠り姫
『サウンドリマスター版』

人が姿を見せない。からっぽの風景に、
濃密な人の気配と声だけがささめく映画。
記憶の奥深くまで語りかけてくる。
この奇妙な世界に入り込むと、
いつしか人の孤独な心だけが
見えてくる。

いくら寝ても、
寝たりない。

初公開から15周年、都内25回目のアンコール上映

2007年11月の初公開からアンコール上映を繰り返す度にリピーターが続出。今なお熱狂的なファンをもつ伝説のインディペンデント映画が、脳内を覚醒させる51chサウンドドリーマスター版で、再びスクリーンに登場。コロナ禍が続く2022年に「あなたが何故そこに存在しているのか」を改めて問う、15周年記念特別上映！

人が姿を見せない。

からっぽの風景に、濃密な人の気配と声だけがさざめく映画。記憶の奥深くまで語りかけてくる、この奇妙な世界に入り込むと、いつしか人の孤独な心だけが見えてくる。

中学校の非常勤講師をしている青地（つくむら）は、この「学校に行くのがおっくうで、いくら寝ても寝不足の感じが抜けない。繰り返して見続けるのは、記憶とも妄想ともつかぬ、奇妙な夢。面長の同僚教師 野口 西島秀俊は、自分の顔のことは棚に上げ、青地の顔がだんだん膨らんでいくと笑う。



●様々な常識を飛び越え、時間の感覚さえ奪われてしまう映画。それでいてリアルであるという矛盾。とてもリアルな夢がそうであるように、いつか映画として観たというのを忘れ、自分が体験したことのように思い込んでしまう日が来るんじゃないかと、自分のことが少し怖くなる。

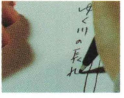
東芋 現代美術アーティスト

なぜ人はこの映画に惹かれるのか？

●一見、重要なものは何も映っていないかのように見えて、実は全部が重要かもしれない。ある種のたらめき、詰め込んだ感じが見えてワクワクし、気配が複雑な感情を呼び覚ます…「ゴダールに似ている」

黒沢清 映画監督

●なぜ眠る女が魅力的なのか
映像を通じて教えられたように感じる。

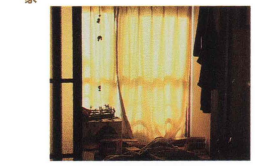


●「眠り姫」に張りつめている空気は、良質な静物画のそれに似ている。シリ・ハストウェットは18世紀フランスの画家シャルダンの静物画を評して「ただのリンゴや水差しが人を感動させるのはそこにいついそぎまで人がいたことを思わせるからであり、それによって、私たち人間がいずれ死ぬ身であることを思わせるからだ」と書いている。

柴田元幸 アメリカ文学研究者、翻訳家、東京大学名誉教授



宮沢章夫 劇作家、演出家、作家



2007年10月6日 日本
HD 151分 80分
製作・配給
charm point

www.nemurihime.info

keishichiri.com

●「眠り姫」に写し出されるのは、ありふれた日常の、ありえない光景。登場人物の濃密な気配はするが、声だけが響く。恐ろしいほど美しい響き。人を写す以上に人の孤独を、情感を浮き彫りにする。

監督は「のんきな姉さん」音から作る映画プロジェクトをはじめ、2022年には最新作にして初の長編ドキュメンタリー映画「背 吉増剛造×空間現代」の公開も待機中、常に新しい映画の可能性に挑戦し続けている異才・七里圭。原作は孤高の漫画家・山本直樹同名漫画「眠り姫」。その原典は、芥川龍之介の死や幻聴をモチーフにした内田百閒の奇妙な短編小説「山高帽子」である。

声 つぐむ
西島秀俊
山本浩司
大友三郎
榎本由希
張野小百合
五十嵐有紗
北田弥恵子
坂東千紗
園部貴一
橋爪利博
横山美智代
馬田幹子
斉藤唯

監修 脚本 撮影 七里圭
原作 山本直樹
企画 全田
演出 越川道夫
脚本 棚沢努
撮影 平林勉
録音 高橋哲也
音楽 小林敏哉
音響効果 岡瀬晶彦
衣装 三木久城
監音 橋田智昭
監修 (SOUND MIX) 重藤正敏
制作 高橋正敏
小林勉

DUBHOUSE EXPERIENCE IN MATERIAL NO.52

第9回25FPS国際映画祭 グランプリ&審査員特別賞 ダブル受賞

第42回コンテルダム国際映画祭短編部門公式上映
第26回ヨーロッパメディアアートフェスティバル招待作品
第8回アンダードックス国際映画祭招待作品
第4回回声映像祭(東京都写真美術館)披露上映

建築は、闇を作る力がある。

2010年国立近代美術館における建築家/鈴木了二のインスタレーション「物質試行51:DUBHOUSE」の記録映画。建築が生み出す闇を捉えるという当初の意図は、翌年3月11日の出来事により決定的な変化を被る。七里は、展示作品を撮影した光の部分と同じ時間の闇を冒頭に置き、その中に、鈴木が描いた被災地のドローイングを洗った。35mmフィルムでしか表現できない、極限の露光、そのあとに訪れる光の静寂。ヨーロッパの国際映画祭でも絶賛を博した本作は、極北のメタ映画であると同時に、歴史的出来事への応答でもある。映画館は、闇を内在した建築である。その闇から浮かび上がるような映画は、映画館に放たれる光であると同時に、祈りであるかもしれない。

共同監督:鈴木了二 | 撮影:七里圭・高橋哲也 | カラー:牧野貴 | 音楽:池田拓実 | 助監督:茶谷和行 | タイミング:清水禎二 | リレコ:狩野靖 | テクニカルアドバイザー:斎藤直彦 | 協力:藤本貴志・棚沢努・宮岡秀行・鎌田英嗣・宮沢章・桑野仁・新橋未成 | ラボ:ヨコソネDIA | 2016 | カラー | 35mm | 16分

4月9日より [4月15日(金)まで] 1週間限定上映.....!

連日12時20分開映
料金(税込)=当日一般・学生¥1,500円/シニア¥1,000円
WEB予約割引¥1,300円 ⇨ www.ks-cinema.com/ にて
※「DUBHOUSE」は「眠り姫」本編前に上映いたします。※「DUBHOUSE」上映中及び「眠り姫」冒頭約4分程度は、作品の性質上、途中入場は出来ません。※トークショー等の詳細は「眠り姫」HP、七里圭公式HP、劇場HP等をご参照ください。

新宿K's cinema
新宿駅東南口階段下ル甲州街道沿
ドコモショップ左入ル
Tel.03-3352-2471 www.ks-cinema.com/
劇場HPから便利なweb予約ができます!
※鑑賞日の3日前AM 0:00より対応。詳細は劇場まで

七里圭監督、最新作にして初の長編ドキュメンタリー映画
「背 吉増剛造×空間現代」
(配給:シネマトリックス/charm point)
新宿K's cinemaにて今秋公開決定!